

慶應義塾大学病院産科外来における遠隔妊婦健診の概要

- 妊婦に安全・安心な遠隔健診を提供できるよう、中部電力・メディカルデータカード社がシステム支援
- MeDaCaのビデオ通話による遠隔健診時に、医師が中電クラウドで取得した血圧・体重のデータを確認

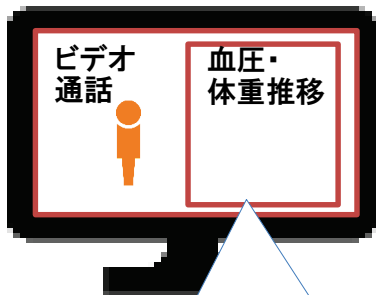
慶應病院



医師

ビデオ通話による遠隔健診

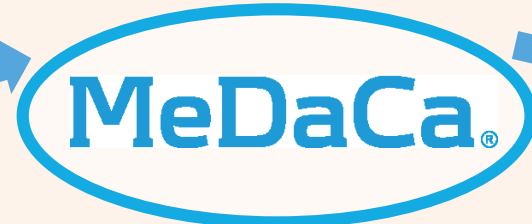
電子カルテ



中部電力

データプラットフォーム

検査結果・処方箋控えデータ等



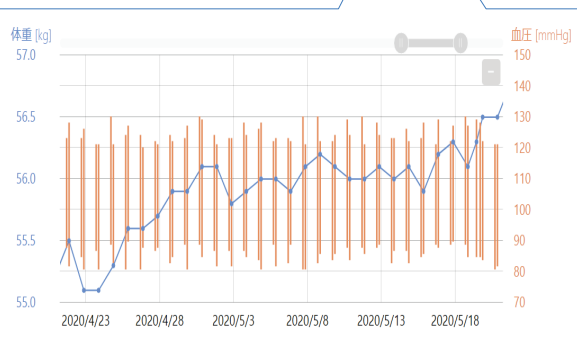
妊婦

自宅で血圧・体重を計測



血圧・体重データ

中電クラウド



慶應義塾大学病院産科外来における遠隔妊婦健診の概要

- 診察当日、妊婦は予約時間にMeDaCaアプリで医師からの着信を受け、診察を開始
- 通院による感染リスクや身体的負担を低減し、待ち時間なく、対面に近い形で妊婦健診の実施が可能



慶應義塾大学 医学部
産婦人科学教室
田中 守 教授のコメント

不要不急の対極にある分娩および妊婦健診は、新型コロナウイルスが蔓延していても先に延ばすことが出来ません。お母さんとお腹の赤ちゃんを感染から守るためには、できるだけ人との接触を減らすことが大切です。

MeDaCaアプリおよび中部電力のデータプラットフォームを使用することで、自宅に居ながら、病院の医師とお互いの顔を見つつ正確な医療・健康情報を共有することで、安心して遠隔妊婦健診を受けることができます。通院による感染リスクや身体的・精神的負担を最小限におさえます。少しでも安全な健診および出産を提供するために遠隔妊婦健診を積極的に進めて行きたいと思っています。